Surgical Insight Community
第1回アンケート結果

～第126回日本外科学会総会（札幌）におけるサテンリボンの取り組みについて～

日本外科学会ブランディング委員会

2026年10月

第1回アンケートについて

- **アンケートテーマ：** 第126回日本外科学会総会（札幌）におけるサテンリボンの取り組みについて（計4問）
- **アンケート期間：** 2026年9月2日～2026年9月8日（7日間）
- **アンケート回答数：** **87**名/128名（回答率　68.0%）

サテンリボンの取り組みに関するSICアンケート

【設問】

Q1. サテンリボンの取り組みを、どのように知りましたか（複数選択可）

- 第126回学術集会の会場で、サテンリボンの配布ボードを見た
- 第126回学術集会の会場で、ネームカードにサテンリボンを貼っている参加者を見た
- 第126回学術集会の会場で、自分自身がサテンリボンをネームカードに貼った
- 日本外科学会のメーリングリストを見た
- 日本外科学会ホームページの記事を見た
- 日本外科学会のSNS投稿を見た
- 今回のアンケートで初めて知った

Q2. サテンリボンの取り組みを、総合的にどのように評価しますか（単一選択）

- とてもよい取り組みだと思う
- どちらかといえば、よい取り組みだと思う
- どちらともいえない
- どちらかといえば、必要性を感じない
- 必要性を感じない
- 判断できるだけの情報がない

サテンリボンの取り組みに関するSICアンケート

Q3. 来年度の学術集会におけるサテンリボンの取り組み実施に向けて、特に必要だと思う対応をお選びください（複数選択可・3つまで）

- 現在の形を基本として、来年度も継続する
- サテンリボンを置く場所を増やす
- 事前および会期中の周知を強化する
- 配布ボードをより目立つデザインにする
- 役割（Student、Speaker等）の種類を見直す、または追加する
- リボン色・文字色・フォント等のデザインを改良する
- 司会・演者などには発表会場の受付等で直接配布する
- 専攻医・臨床研修医・医学生への案内を強化する
- 取り組みの目的や期待する効果を、より明確に伝える
- 費用対効果を確認したうえで継続を判断する
- 来年度は実施しなくてよい
- 特に改善は必要ない

Q4. サテンリボンの取組について、評価した点、気になった点、来年度への提案などがありましたらご記載ください（自由記載・任意）

サテンリボンの取り組みに関するSICアンケート結果

Q1. サテンリボンの取り組みを、どのように知りましたか（複数選択可）

結果：認知度には課題がある。

Q1では、42名（48.3%）が「今回のアンケートで初めて知った」と回答しており、モニター会員の中でも取り組み自体が十分に認知されていなかったことが分かりました。

一方、学術集会会場での認知経路については、総会開催前のメーリングリストや総会中のSNS投稿、学会HPの記事という電子的周知による認知割合は低く、会期中の会場における直接周知以外の方法について検討の余地があることが示唆されました。

認知経路	人数	割合
今回のアンケートで初めて知った	42	48.3%
会場で配布ボードを見た	24	27.6%
リボンを貼っている参加者を見た	23	26.4%
自分自身がリボンを貼った	14	16.1%
学会HPの記事	13	14.9%
メーリングリスト	7	8.0%
SNS投稿	6	6.9%

サテンリボンの取り組みに関するSICアンケート結果

Q2. サテンリボンの取り組みを、総合的にどのように評価しますか（単一選択）
結果：取り組みそのものへの評価は、おおむね好意的である。
Q2では、「とてもよい」：29名（33.3%）・「どちらかといえばよい」：29名（33.3%）
であり、合わせて58名、66.7%が肯定的に評価していました。
肯定的 66.7%、中立・判断困難 16.1%、否定的 17.2%という結果であり、
特に、**取り組みを以前から知っていた45名**では、肯定的評価が73.3%だったのに対し、
今回のアンケートで初めて知った42名ではその割合が59.5%でした。
実際に取り組みを認知・経験した層では、より高く評価されている可能性が示唆されました。

評価	人数	割合
とてもよい	29	33.3%
どちらかといえばよい	29	33.3%
どちらともいえない	10	11.5%
判断できるだけの情報がない	4	4.6%
どちらかといえば必要性を感じない	7	8.0%
必要性を感じない	8	9.2%

サテンリボンの取り組みに関するSICアンケート結果

Q3. 来年度の学術集会におけるサテンリボンの取り組み実施に向けて、特に必要だと思う対応をお選びください（複数選択可・3つまで）

結果：来年度に向けた最大の要望は「周知強化」である。

来年度に必要な対応	人数	割合
事前および会期中の周知を強化する	35	40.2%
費用対効果を確認したうえで継続を判断	26	29.9%
現在の形を基本として来年度も継続	26	29.9%
目的や期待する効果をより明確に伝える	22	25.3%
司会・演者等には会場受付等で直接配布	21	24.1%
サテンリボンを置く場所を増やす	16	18.4%
専攻医・研修医・医学生への案内を強化	12	13.8%
役割の種類を見直す・追加する	12	13.8%
配布ボードをより目立たせる	7	8.0%
来年度は実施しなくてよい	5	5.7%
デザインを改良する	4	4.6%

「来年度は実施しなくてよい」はわずか5.7%である一方、

- 周知強化 40.2%
- 現行を基本として継続 29.9%
- 目的・効果の明確化 25.3%
- 直接配布 24.1%

という結果でした。したがって、**取り組み自体には一定の支持はあるものの、認知と目的共有が不十分であったことが示唆され、来年度はその点を改善して対応すべきである**と考えられました。

サテンリボンの取り組みに関するSICアンケート結果

Q4. サテンリボンの取組について、評価した点、気になった点、来年度への提案などがありましたらご記載ください（自由記載・任意）
結果①:「分かりやすい」「交流のきっかけになる」という肯定意見が見られた。

自由記載では
- 参加者の立場・役割が視覚的に分かる
- 医学生・研修医など若手を見つけやすい
- リクルートや若手への声掛けにつながる
- 海外学会でも一般的で、学会らしい・おしゃれ
- 個人や施設のブランディングにもなる

という評価が複数ありました。若手、特に「Medical Student（医学生）」の識別については比較的評価が高い印象がありました。

サテンリボンの取り組みに関するSICアンケート結果

Q4. サテンリボンの取組について、評価した点、気になった点、来年度への提案などがありましたらご記載ください（自由記載・任意）
結果②：「何のためのリボンなのか」が伝わっていない。

自由記載では、
- 「学会的に何が目的？」
- 「役割を示すことで交流が活発化するメカニズムが分からない」
- 「単なる肩書の表示、勲章のように見える可能性がある」

といった指摘もありました。
来年度は、「役割を表示すること」が目的なのではなく、「話しかけるきっかけをつくり、参加者同士の交流を促すこと」が目的であることを前面にアピールする必要が示唆されました。

サテンリボンの取り組みに関するSICアンケート結果

Q4. サテンリボンの取組について、評価した点、気になった点、来年度への提案などがありましたらご記載ください（自由記載・任意）
結果③：Speaker・Chairpersonよりも「若手」に重点を置くという提案が見られた。

複数の自由記載で、
- Medical Studentは有用
- 医学生、研修医、専攻医を目立たせるのはよい
- SpeakerやChairpersonはプログラムを見れば分かるので必要性が低いのではないか

という意見がありました。
さらに、
求職中、募集中、専門領域、声をかけてください
など、交流に直接結びつく情報を表示してはどうかという提案もありました。

サテンリボンの取り組みに関するSICアンケート結果

Q4. サテンリボンの取組について、評価した点、気になった点、来年度への提案などがありましたらご記載ください（自由記載・任意）
結果④：配布方法は改善余地がある。

サテンリボンを配布する具体案として、
- 発表会場受付でSpeaker・Chairpersonへ直接渡す
- 参加受付時に渡す
- 最初からネームカードに役割を印刷する
- ネームカードの色で区別する
- 配布場所を増やす

などの提案がありました。
このことは、「自分で配布ボードを見つけ、自分で取って貼る」という導線だけでは利用率向上には不十分であり、来年度も会期中における現地での配布方法については対策が必要であると示唆されました。

サテンリボンの取り組みに関するSICアンケート結果

Q4. サテンリボンの取組について、評価した点、気になった点、来年度への提案などがありましたらご記載ください（自由記載・任意）

結果⑤：費用対効果を求める意見やサテンリボン以外の役割提示方法についての提案が見られた。

自由記載では、
- いくら費用がかかっているのか知りたい
- 経費節減も考える必要がある
- ネームカード印刷等でも代替できるのではないか

という指摘がありました。

結果のまとめと今後の方向性

➢ **結果のまとめ**

- **取り組みへの評価はおおむね好意的**
  回答者の66.7%が肯定的に評価しました（Q2）。
- **認知と目的の共有には改善の余地**
  48.3%が「今回のアンケートで初めて知った」と回答しました（Q1）。来年度に向けた要望では「周知強化」が最多（40.2%）で、目的・効果の明確化や配布方法の改善も求められました（Q3・Q4）。
- **費用や実施方法についても検討が必要**
  29.9%が費用対効果を確認したうえでの継続判断を求め、自由記載では経費節減や代替方法の提案もありました（Q3・Q4）。

➢ **今後の方向性**

学術集会におけるサテンリボンは、会員同士の交流を促し、学会への親しみや一体感を育むことを目指す取り組みの一つです。学会ブランディング活動は、複数の施策を継続する中で効果の積み重ねを目指すため、個別の施策の費用対効果を明確に示すことには幾分難しさがあります。

今回のアンケート結果を踏まえつつ、来年度は、周知・目的の共有と配布方法の改善を図るとともに、費用や代替方法も検討しながら、取り組みを継続・改善してまいります。